



▲市川笑三さん

模倣者が現れ、遊女が演じる遊女歌舞伎(女歌舞伎)や、前髪を剃り落としていない少年俳優たちが演じる若衆歌舞伎が行われていたが、風紀を乱すとの理由から、前者は寛永六年(一六二九)、後者も承応元年(一六五二)に禁止されました。代わって、今日の歌舞伎の源流となる成人男性のみで演じる野郎歌舞伎となり、男性が女性役をつとめる女形が確立し、容姿より技芸と脚本を重んじた芝居として栄えました。

元禄期(一六八八～一七〇四)に江戸で「荒事」(豪快で力強い芸)を得意とした市川團十郎が活躍し、上方で坂田藤十郎と作者の近松門左衛門によつて、後に「和事」(柔らかく優美な演技)と呼ばれる様式を確立するな

ど、江戸・上方で独特の美の世界を形成していきました。

以後も、名優や名作者を輩出し、人形浄瑠璃の演目・演出や様々な音楽を取り入れて多彩な発展をとげました。江戸時代の流行歌だった長唄は伴奏音楽として使われ、語り物としては義太夫などが使われました。歌舞伎の音楽は、その発展にしたがって変化していき、一八〇〇年頃、江戸末期に今のような音楽の使われ方になりました。また、18世紀半ばにセリや廻り舞台など、歌舞伎独特の舞台機構が考案され、変化に富んだ演出が可能になりました。

明治以後も時代の変化とともに近代化に向けた取り組みがなされました。関東大震災、第二次世界大戦などに際して存続の危機にさらされましたが、その都度、関係者の努力で蘇り今日まで商業演劇として中心的地位を築き上げてきました。

長門市においては、近松門左衛門出生伝承に因み、長門市制施行四〇周年でスタートした近松祭に長門を経て、平成12年に歌舞伎などの古典芸能が本格的に上演できるホールとして「ルネッサながと」が建設され、たくさんの方々が上演されるようになり多くのファンから支持を集めています。



▲11月2日の本番に向けて練習に励む市民のみなさん

11月2日、歌舞伎が熱い！

山口県総合芸術文化祭「創作舞台公演」

国民文化祭やまぐちの成果を引き継ぐ文化イベント「山口県総合芸術文化祭」。長門市では歌舞伎を地域の文化活動の柱とした取り組みを進めており、11月2日にルネッサながとで行われる第2回山口総合芸術文化祭では、市川笑三郎さん脚本・演出の「創作歌舞伎」が上演されます。

■11月2日に創作歌舞伎を上演

長門市では、文化を地域活性化のための重要な資源とし、個性溢れるまちづくりに取り組んでおり、古典芸能の公演に優れた劇場を有しています。このため、第2回山口県総合芸術文化祭の中で、11月2日(日)にルネッサながとで、市川笑三郎さんが書き下ろした創作歌舞伎が上演されることになりました。

この創作歌舞伎は、通の鯨回向を題材にされているということですが、捕鯨を通して命の尊さを訴える内容になっており、

市内外から応募した40人のアマチュアの出演者が本番に向けて厳しい練習を重ねており、素晴らしい舞台が期待できます。ぜひこの機会に歌舞伎の世界にふれてみてはいかがでしょうか。

■歌舞伎とは

「歌舞伎」は、戦国時代に流行した異様な振る舞いや風俗という意味の「傾く」という語が転じたものとされ、江戸時代初期、京都で評判となった出雲阿国の「かぶき踊り」がはじめとされています。

阿国が評判になると、多くの

■歌舞伎の解説

●歌舞伎の舞台

●花道
舞台の下手側から観客席を貫く通路で、花道の突き当たりに鳥屋口(揚幕のかかった小部屋)があり、そこから役者が登場・退場する歌舞伎独特の舞台機構。舞台から3分、後方から7分の位置を「七三」と呼び、この位置で役者は芝居や踊りを演じる。花道の語源は、花の役者が通る道、役者にはな(祝儀)を贈る道などの諸説がある。

●セリ

舞台の一部を四角に切り込んで、床を昇降させる装置。床下から道具や役者などをせり上げたり下げたりする。

●スッポン

花道の「七三」にあるセリのこと。スッポンから出入りするものは、原則として幽霊や妖怪など、普通の人間以外の役。

●廻り舞台

舞台そのものを円形に切つて回転させる歌舞伎独自の装置。道具や役者を乗せた状態で回転させるため、場面の転換がスムーズに行われる。場面の変化が視覚的にとらえられ、演出効果も大きい。

●黒御簾

舞台下手の黒いすだれの下が

る部屋。客席からは見えないがたくさんの楽器が置かれ、芝居で流れる音楽や雨音、雷などの効果音が演奏される。

●定式幕

歌舞伎の舞台の正式な引幕。赤茶色、萌黄色、黒色の三色になっている。

●歌舞伎の用語

●大向う
元々は舞台から遠い客席のことを言うが、安価なので常連客が多く、ここから屋号の「〇〇屋」や「待ってましたー」などの掛け声がかかるため、これらの客のことを「大向う」と呼ぶようになった。

●見得
演技の中で感情が最高潮に達したときに、動きを止めて形を決める演技のこと。ツケという音の効果を入れ、役者の動作を際立たせる。

●ツケ

舞台の上手の端に黒衣を着た係が座り、役者の演技に合わせ、四角い板を両手に持った2本の拍子木で打つ。これをツケといい、打つ板を「ツケ板」、その係を「ツケ打ち」という。

●柝

拍子木のこと。幕の開閉や芝居の始まりと終わりなど、舞台の進行の合図として打たれる。



私たち、がんばります!
ぜひ見に来てくださいね。

11月2日(祝) **メインステージ**
第一部 飯山名だも歌舞伎の巻
第二部 「後の鯨図巻体依」 市川笑三郎

11月3日(祝) **まもだも**
「後の鯨図巻体依」 市川笑三郎

山口県総合芸術文化祭
メインステージ
フェスティバル

山口県文化連盟
山口県文化振興課内
〒753-8501 山口市滝町1-1
TEL 083-933-2610
FAX 083-933-4829

「メインステージ」の入場には 入場整理券が必要です

入場料は無料です。入場整理券をご希望の人は左記の要領でお申し込みください。

【応募方法】

- 希望人数(1通につき2名以内)、郵便番号、住所、氏名、電話番号をご記入のうえ、はがきまたはインターネットでお申し込みください。
- 希望人数の記入のなかった場合は1名分とします。
- 車いすをご利用の人は、その旨を記入してください。

【応募方法】

http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a19300/index

●未就学児は親子室がご利用いただけますので、ご希望の人はその旨記入してください。

※送付いただいた個人情報はこの目的にのみ使用します。

【応募締切】10月17日(金)消印有効
【発表】10月下旬。なお、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

【応募・問い合わせ】
山口県文化連盟
山口県文化振興課内
〒753-8501 山口市滝町1-1
TEL 083-933-2610
FAX 083-933-4829

くじら回向をモチーフに 市川笑三郎さんインタビュー



▲市川笑三郎さん

昭和45年5月6日生まれ。市川猿之助に入門。61年5月三代目市川笑三郎を名のり初舞台。平成6年2月、猿之助の部屋子となる。10年7月名題昇進。屋号は「澤瀉屋」。歌舞伎俳優として、時代物、世話物の女房役から姫までを演じ、その台詞の美しさや技術の高さには定評がある。最近では「スーパー歌舞伎」に出演し話題に。

Q 今回の創作舞台はどのような内容になるのですか?

笑三郎さん 長門市は鯨が有名なところなので、ぜひそれを題材に取り上げたいなと思っていました。県民のみならずにご出演いただいで、私が創作をさせていただく中で、歌舞伎という演劇をどうしようもんだというの、は思っていたら思っていると思うんですけど、実際に体験していただくと思外な面を見ていただくことができると思うんですね。それによって、さらに面白さだけの面白さから自分がやって

みることで、歌舞伎に対しての興味とかまたは理解とか面白さを感じていただけると私としてもありがたい。そういうものを今までにない第一回目の試みというところでやらせていただけた意義を何か結果に残したいなと思っています。

もともとこの方からある昔話、くじらの回向をなせるようになったかというお話なんですけど、その中に鯨の長みいなが出てきて、「今回は沖を渡るときに襲わないでくれ」と約束するんだけども漁師が

それを忘れて捕ってしまっただけでいいみたいなものがあってしまっているんですが、結局、反省をして回向をするようになったという話なんです。簡単にいうと、そういう話をもっといろいろと私なりの発想も加えて、工夫を凝らしてお見せしたいなと思っています。

Q 歌舞伎の世界に入られたきっかけと歌舞伎の魅力は?

笑三郎さん 私が歌舞伎俳優になったきっかけというのは、舞台上立つ人の目が、照明の反射だと思っただけで、キラッと光って見えたんです。それで、昔の幼児番組、ヒーローものの影響でしようね、目が光る人って変身ができるような超人だと思って、ここにいる人は人間じゃないと思っただけです。ここがここ上がれば超人になれると思っただけで、舞台上にまず上がりたいと思っただけです。初めて見たのが歌舞伎だったのがきっかけかといえればきっかけ

Q 歌舞伎を最初にご覧になったのはいつのときですか?

笑三郎さん 小学校に上がるちょっと前くらいです。子供たちがいわゆる戦隊ものにあこがれるのと同じですよ。変身するんですよ、まったく違う人になっちゃう。それに興味をそそられたというのが私にとっては歌舞伎だったわけなんです。お化粧をして舞台に出るということは何となくいまだに子供ごろの変身願望って言いますかね、そういうのはありますね。

Q 11月の公演ではどのような内容を見たいですか?

笑三郎さん これだけ大掛かりな器(劇場)を使い、出演者の方を扱って自分の書き下ろしで、ということをやらせていただくのは初めてなので、ここだけしか見られないもの、ここで出来上がったものなので、ぜひ、みなさんに見ていただきたいですね。